

みやぎ技能 KENTEI NEWS

第6号
令和4年3月

宮城県は、技能向上に挑戦する会社と若者を応援します。

株式会社北光南方工場 今野 友哉さん（25歳）

1級プラスチック成形技能士（射出成形作業）令和3年度合格



受検するきっかけ

平成27年に涌谷高校を卒業後、株式会社北光南方工場の成形課に入社配属されて、今年で6年目になります。現在は、プラスチック射出成形部門のエリアリーダーとして、チームの業務のとりまとめや課題解決を行いながら、成形機のオペレーターの業務に携わっています。

最初の受検は、入社3年目の2級です。技能検定制度の存在は、入社してから知りました。自分の技量を試す試験があるということで受検したのだと思いますが、正直、2級受検のきっかけはよく覚えていません。でも、1級は、2級に合格した時から、「次は1級を受けたい」と思っていました。仕事における技術の向上と自身の成長のためにも、1級の知識や技能が必要なんじゃないかなと思いましたし、会社のバックアップも大きいのでチャレンジしてみようと思いました。本当は、令和2年度に受検しようとしていたのですが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、今年度受検しました。

合格に向けて取り組んだこと

学科試験の勉強は、過去問を繰り返し勉強し、わからないところはテキストで確認することにより理解が深まりました。

実技試験の練習は、とにかく、透明な製品の霽（もや）がうまく抜けなかったことによりかなり苦戦し、実技の練習の3分の2くらいはこれに費やしました。

また、1級は2級に比べて品質やスピードについてレベルが高いため、上司や先輩にアドバイスをもらいながら繰り返しの練習をするほかに、会社から時間を設けてもらい、本番を想定した練習も行わせてもらいました。

技能検定受検を通して得たこと

改めて基本の重要性がわかったということだと思います。忘れかけていた部分も技能検定の勉強を通してその重要性を再認識することがありました。

また、実技試験の練習では、うまくいかない部分を、同僚と一緒に考えながらやって、うまくいった、だめだったというふうに、試行錯誤するのが楽しかったです。やっと透明製品の霽（もや）が抜けた時には「やっと抜けたな」という感じで嬉しかったです。



今後の目標

さらなる自分の技能の向上を目指して特級技能士になれるよう日々努力することです。資格の取得はゴールではなく、さらなるステップアップのための手段だと思うので、今後も受検を通して得た知識や技能をより向上させられるようモチベーションを上げて努力していきたいと思います。

事業者の声



右) 代表取締役社長 佐藤伸也さん

「芳賀技師が、社員の育成に献身的に頑張ってくれているんです。各種費用負担も社員の研鑽には代えがたいですから。」

左) 南方工場製造2課技師 芳賀利之さん

「会社には無理を言って資格手当をアップしてもらったこともありました(笑)」



50台以上の成形機が、6~8のエリアに分かれ、設置されています。

技能検定への取り組み状況

技能検定を受検する活動は、平成9年度の築館工場から始まり、工場移転等で一時中断はあったものの、

現在まで25年近く継続しており、平成26年度には、技能検定功労事業所として知事表彰をいただきました。平成30年度からは、南方工場と高清水工場でも実技試験を受験できるように環境整備に取り組みました。技能検定の練習は、休日のほか勤務時間を練習時間に充てたり、練習に必要な材料費もちょっとびっくりするくらいの価格ですが、会社が全額負担しており、練習では、社内のベテラン技能士が指導を行うなど、受検者のバックアップをしています。また、最近はお客様から、資格を持っている事を要求されることも増えており、会社としても計画的に社員の資格取得を勧奨しています。

当初から、資格取得のための受検費用は会社が全額負担しており、合格後は、級ごとに資格手当が支給されます。また、資格制度とは別に、30等級の職能給制度もあり、資格を取得しただけでなく、その資格を使って、実際に実績を上げていけば、職能給も支給されるようになっています。



資格取得の意義

組織とか企業に頼らなくても、自立してやっていける力を社員一人ひとりが身につけてくれることが大事だと思っています。自分の力で生きられる、社会的に通用する資格を持ち、認められる力を持つということは、本人のためになるし、仕事をする上でのモチベーションにもなります。もちろん、資格の裏付けのある知識や技能の習得は、生産性や品質も向上させてお客様のためになるし、会社のためにもなるのですから、悪いことは一つもない、良いことしかないのです。

技能検定受検では、普段はやらない厳しい条件で、普段は考えないようなことも考えなければなりません。ものづくりをする者にとっては、その試行錯誤でレベルがあがっていくので、良い経験になると思います。

今後の取り組み

人件費の安い諸外国に製造業が移転しており、日本に残る仕事は技量が要求される難しいことやスピード

が要求されるものとなっています。それらを適正なコストで提供できるという強みを持つ必要があります。とはいえ、技能は一朝一夕に上達するわけではありませんから、地道に人の育成を続けてやっていかなければならないと思っています。また、特に地方では少子化が顕著ですが、入社してきてくれる人たちを大事にしたいと思ひますし、Uターンなどで戻ってくる人たちの受け皿にもなっていきたいと思ひます。



社員にはそれぞれ持ち味があって、機械に詳しくったり、電気に詳しくったり、いろんな社員がいますの



で、その人にあつた部分を極めていってもらえたらいいと思ひています。若い人たちにはいろいろなことを吸収してもらって、よりよい生活をしてもらえたらいいと思ひてずっとやってきましたので、これを続けていきたいと思ひます。

株式会社北光南方工場（登米市南方町長者原）

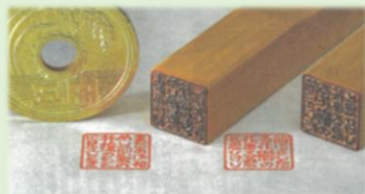


会社紹介

社名：株式会社北光
 代表：代表取締役会長 小池勇
 代表取締役社長 佐藤伸也
 創業：昭和43年8月
 事業内容：車載電装部品、モジュール部品、
 インサート部品の生産・組立
 所在地：本社・高清水工場
 栗原市高清水下佐野 23
 TEL：0228-58-3151
 Web：https://www.t-hokkoh.com/

<ひとくちメモ こんな職種知ってる？>

「印章彫刻（いんしょうちょうこく）」令和3年度後期技能検定で実施されました。宮城県では、昭和49年以来、48年ぶりに実施された職種で、象牙、水牛、ツゲの木などの印材を彫刻して印章を作成する仕事です。印章は、個人、会社、団体の責任や権威を証明するものとして日本でも古くから使用されています。いわゆる「はんこ」ですね。



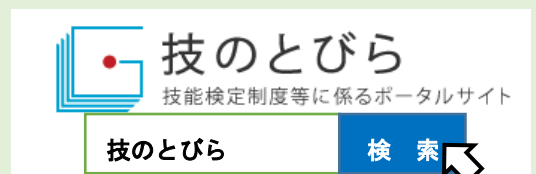
ほかにも、さまざまな場所に、たくさんの分野の仕事があり、私たちの社会や暮らしを支えています。そこにある「技能」を知ることから、あなたの世界が広がるかも。

「技のとびら」（技能検定制度ポータルサイト）のご紹介

技能士のすぐ腕動画配信中！

さまざまな技能職種の紹介のほか、各種技能競技大会情報、技能検定の合格者体験談、企業側の視点での技能士の活用事例なども掲載されています。

ぜひ一度のぞいてみてください。



技のとびら

検索



宮城県白石工業高等学校 設備工業科 水戸悠貴さん(18歳)

3級冷凍空気調和機器施工技能士(冷凍空気調和機器施工作業) 令和2年度合格



受検するきっかけ

私がこの検定を受検したきっかけは、設備工業部に入部した時に技能士の試験があるということを知り、自分の知識や技術を身につけ、将来の仕事に活かせればと思い受検しました。

合格に向けて取り組んだこと

3級合格に向け、施工方法や施工手順を意識して行いました。最初の練習では道具の使い方すら知らず教えて貰うところから始まりました。そのため、フレアツールでの加工の仕方からやりました。また、どの手順でやると後の施工が行い易いかなどを考えながら練習に取り組みました。

技能検定受検を通して得たこと

この検定の受検を通して得たことは、3級は時間ではなく正しい施工方法が大事だということです。試験時間は余るほどあり、練習では時間をあまり気にせずミスのないように取り組みました。その中でも先生に教えられたことの他に自分にあった方法を探し、自分のやりやすいように行いました。

今後の目標

今後は施工管理という職に就きますが、今回の検定で身につけた知識や技術を活かして、管理する立場となっても、現場の方々の立場にも気を配ることができるような人になりたいです。



学校の声：実習助手 早坂直也さん

本校は、1962年(昭和37年)4月、県南唯一の工業高校として設立されました。校訓「誠実」のもと、機械・電気・建築・工業化学・設備工業の5学科が、実験や実習を行うための充実した施設や設備のもとで学習活動を行い、「心身ともに健全で実践力のあるものづくり人材」の育成に努めています。

設備工業科は、建築物に設ける各種設備(建築設備)について学べる県内唯一の学科です。その意義は昨今の気象状況や人々の生活環境の変化から、今後より一層高まるものと考えています。

そこで、建築設備に関する実践的な知識、技術の習得を目指し、3年程前からものづくりマイスターの方々に支えられながら、設備工業部に所属する生徒を中心に技能検定へチャレンジしています。取り組んだ生徒の中には、上位の資格や関連する職種に興味を持つ生徒もあり、生徒の興味・関心を向上させることに繋がっていると感じます。また、関係する業界に就職する生徒もいることから、進路選択にも生かされていると考えます。今後もこの活動を続け、地域や県内はもとより、国内・海外の様々な分野で活躍し、社会の発展に貢献できる生徒を育成していきたいと思えます。

学校名：宮城県白石工業高等学校
創立：昭和37年
学科：機械科、電気科、建築科、工業化学科、
設備工業科
所在地：白石市郡山字鹿野43
HP：<https://shiroishi-kougyou.myswan.ed.jp/>

発行 宮城県経済商工観光部産業人材対策課 電話 022-211-2763
E-mail sanzinj2@pref.miyagi.lg.jp Web <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sanzin/>